

少数台数のリコール届出の公表について（平成28年2月分）

リコール対象が少数である100台未満の届出について、平成28年2月は17件の届出がありましたので、公表します。

1. 届出者：日立建機株式会社

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	製作期間
2月3日	3750	車名：日立 型式：YDN-H80 通称名：ZW80-5B	75	平成27年2月27日～ 平成28年1月8日
不具合の部位等	ショベルローダの燃料ホースにおいて、燃料ホースの配索が不適切なため、エアコン用コンプレッサ駆動ベルトとの隙間が小さいものがある。そのため、作業時の車両の振動により燃料ホースがコンプレッサ駆動用ベルトと接触して、当該ホースが摩耗し燃料が漏れるおそれがある。			

2. 届出者：三菱マヒンドラ農機株式会社

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	製作期間
2月3日	3760	車名：三菱 型式：GT25F 通称名：GS251	2	平成27年12月24日～ 平成28年1月8日
不具合の部位等	農耕トラクタにおいて、車軸の製造が不適切なため、車軸の抜け止め用のCリングが正規の位置に組付けられていないおそれがある。そのため、そのままの状態で使用を続けると、車軸を固定しているブッシュ等が摩耗して車軸にがたつきが生じ、最悪の場合、走行中に車軸が抜けるおそれがある。			

3. 届出者：三菱自動車工業株式会社

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	製作期間
2月5日	3762	車名：三菱 型式：LDA-CV1W 通称名：デリカ	98	平成28年1月18日～ 平成28年1月26日
不具合の部位等	バキュームポンプにおいて、組み付け作業が不適切なため、ポンプのオイル給油穴にシール剤が浸入することがある。そのため、バキュームポンプ内のオイルが不足し、油膜によるシール性低下から負圧不足となり、最悪の場合、ブレーキペダルの操作力が増大し、制動距離が長くなるおそれがある。			

4. 届出者：酒井重工業株式会社

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	製作期間
2月8日	3761	車名：サカイ 型式：KDP-1TZ1 通称名：TZ701-1	38	平成26年2月26日～ 平成26年3月25日
不具合の部位等	タイヤ・ローラの泥除け装置において、泥除けマット固定用ホルダーの溶接施工が不適切なため、当該ホルダーの接合部の溶接強度が不足しているものがある。そのため、そのままの状態で使用を続けると、走行時の振動等により接合部に亀裂が入り、最悪の場合、泥除け装置が路上に落下するおそれがある。			

5. 届出者：新潟トランス株式会社

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	製作期間
2月12日	3763	車名：ニイガタ 型式：YDM-NR2B 通称名：ニイガタNR43ローリ除雪車	20	平成27年8月27日～ 平成27年12月16日
不具合の部位等	<p>パワーステアリング用油圧ポンプにおいて、当該ポンプの取付ボルトの選定が不適切なため、取付ボルトが正しく組み付いていない。そのため、走行振動等により取付ボルトのねじ山が損傷し、そのままの状態で使用を続けると、取付ボルトに緩みが生じ、パワーステアリング用油圧ポンプの取付部からオイルが漏れて油圧が低下し、ハンドル操作が重くなるおそれがある。また、オイルがなくなると走行モータが作動せずに走行不能となるおそれがある。</p>			

6. 届出者：範多機械株式会社

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	製作期間
2月17日	3766	車名：HANTA 型式：YDM-F25W5 他 通称名：1432W 他	32	平成27年6月8日～ 平成28年1月28日
不具合の部位等	<p>アスファルト・フィニッシャのエンジンコントロールユニットにおいて、電源リレー部の設計が不適切なため、電源リレーとリレーホルダーの嵌合いが甘い。そのため、そのままの状態で使用を続けると、走行時の振動等によりリレーホルダーから電源リレー外れ、インジェクタ、フューエルポンプ等へ電源供給ができなくなり、エンジンが停止し、再始動できなくなるおそれがある。</p>			

7. 届出者：株式会社タダノ

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	製作期間
2月17日	3768	車名：日野 型式：TKG-FC9JGAP 通称名：日野レンジャー	15	平成27年6月8日～ 平成27年12月2日
不具合の部位等	<p>高所作業車の突入防止装置において、車両の設計が不適切なため、車両後面の構造物の下縁高さが550mmを超え、保安基準に適合しない。</p>			

8. 届出者：三菱ふそうトラック・バス株式会社

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	製作期間
2月18日	3771	車名：三菱 型式：KL-MP37JM改 他 通称名：ふそうエアロスター	30	平成18年1月18日～ 平成18年8月24日
不具合の部位等	<p>大型路線バスのCNG車において、電気配線の図面指示が不適切なため、前部霧灯の点灯操作状態を運転者に表示するための装置が装着されていないものがある。</p>			

9. 届出者：ヤマハ発動機株式会社

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	製作期間
2月23日	3777	車名：ヤマハ 型式：EBL-SJ12J 通称名：XP500A TMAX	3	平成28年1月18日～ 平成28年1月19日
不具合の部位等	<p>原動機のスロットルボディにおいて、空気量を調整する部品の加工が不適切なため、冷却水が高温時に空気量を調整する弁が閉じず、空気がエンジンへ過剰に供給されることがある。そのため、走行中にスロットルを全閉にしてもエンジン回転がアイドル回転数まで下がらなくなるおそれがある。</p>			

10. 届出者：スズキ株式会社

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	製作期間
2月23日	3778	車名：スズキ 型式：JBH-CA4AA 通称名：レッツ	10	平成26年12月11日～ 平成26年12月23日
不具合の部位等	原動機において、インテークパイプの取り付けボルトの締め付けトルクが不足しているものがあり、当該ボルトが緩んでインテークパイプ取り付け部の隙間から空気を吸い込むことによって、走行中に意図せずエンジン回転数が上昇するおそれがある。			

11. 届出者：株式会社M-TEC

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	輸入期間
2月4日	外2308	車名：ホンダ 型式：不明 通称名：VFR1200X MUGEN 他	72	平成24年5月2日
不具合の部位等	プロペラシャフトのヨークジョイント部において、ベアリング抜け防止のかしめ圧及びベアリングを保持するハウジングの形状が不適切なため、走行時の摩擦による熱や高い負荷によりベアリング内部が摩耗するものがある。そのため、そのままの状態で使用を続けると、ヨークジョイント部が破損して、最悪の場合、走行不能となったり、プロペラシャフトがスイングアームと干渉し、リヤホイールがロックするおそれがある。			

12. 届出者：ビー・エム・ダブリュ株式会社

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	製作期間
2月5日	外2309	車名：BMW 型式：LDA-2E20 通称名：BMW 218d Gran Tourer	1	平成27年10月13日
不具合の部位等	電動パワーステアリング（EPS）において、操作状況を検知するセンサーユニットの製造が不適切なため、ローターコアとローターシャフトにガタが生じているものがある。そのため、EPSコントロールユニットが直進位置を認識できず、警告灯が点灯してパワーステアリングのアシスト機能が停止し、ステアリングの操作力が増大するおそれがある。			

13. 届出者：株式会社プレストコーポレーション

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	輸入期間
2月17日	外2310	車名：ヤマハ 型式：RP194 通称名：XJR1300C	87	平成26年12月11日～ 平成27年6月11日
不具合の部位等	原動機において、プライマリチェーンとオイルノズルの隙間に余裕がないため、使用課程でプライマリチェーンが伸びてオイルノズルと接触することがある。そのため、そのまま使用を続けると、オイルノズルが原動機内に脱落して、クランクケースとクランクシャフトの間等にかみ込むと、最悪の場合、走行中にエンジンがロックして再始動出来なくなるおそれがある。			

14. 届出者：伊藤忠オートモービル株式会社

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	製作期間
2月24日	外2298	車名：スズキ 型式：CX112 通称名：GLADIUS	30	平成25年1月28日～ 平成27年1月23日
不具合の部位等	燃料タンクにおいて、ブリーザホースの組付けの作業指示が不適切なため、ホースが屈曲して組付けられているものがある。そのため、ホースが閉塞し、燃料タンクの内圧調整ができず変形して、最悪の場合、燃料タンクが損傷して燃料が漏れるおそれがある。			

15. 届出者：伊藤忠オートモービル株式会社

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	製作期間
2月24日	外2300	車名：スズキ 型式：DD111 通称名：V-Strom 1000	70	平成25年12月19日～ 平成27年2月6日
不具合の部位等	<p>① 始動装置において、イグニッションスイッチリード線とワイヤーハーネスを接続するカプラの構造が不適切なため、使用過程において、当該カプラ内部の端子が、被水により腐食することがある。そのため、そのまま使用を続けると、腐食が進行して導通不良となり、最悪の場合、走行中にエンジンが停止するおそれがある。</p> <p>② ワイヤーハーネスの配索設計が不適切なため、燃料タンク裏面と干渉していることがある。そのため、そのまま使用を続けると、走行中の振動によりワイヤーハーネスの被覆が摩耗して短絡し、エンジン不調となり、最悪の場合、走行中にエンジンが停止するおそれがある。</p> <p>③ バッテリーのアース端子の固定位置が不適切なため、使用過程において、アース端子に電気が流れにくくなることがある。そのため、そのまま使用を続けると、最悪の場合、スターターモーターが作動せず始動不能となるおそれがある。</p>			

16. 届出者：メルセデス・ベンツ日本株式会社

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	輸入期間
2月25日	外2313	車名：メルセデスベンツ 型式：DBA-176042 他 通称名：A180 他	17	平成24年10月1日～ 平成26年3月17日
不具合の部位等	<p>横滑り防止装置（ESP）コントロールユニットにおいて、サービス工場での修理等の際に誤ったプログラムが書き込まれたため、ESPの機能及び前走車追従走行装置が適切に作動しないことがある。そのため、ESP故障時に警告灯が点灯しない他、前走車追従走行装置作動時の車両停止保持機能が作動せず、前車停車時に車両が動き出し、最悪の場合、追突するおそれがある。</p>			

17. 届出者：メルセデス・ベンツ日本株式会社

届出日	届出番号	車名、型式、通称名等	対象台数	輸入期間
2月25日	外2314	車名：メルセデスベンツ 型式：LDA-166024 他 通称名：GLE350d 4MATIC 他	86	平成27年9月20日～ 平成27年11月5日
不具合の部位等	<p>バッテリーケーブルにおいて、当該ケーブルの配索が不適切なため、ワイパーを作動させた際、ワイパーリンクケージに干渉するものがある。そのため、バッテリーケーブルの被覆が損傷し、最悪の場合、バッテリーケーブルとワイパーリンクケージがショートし、ワイパーモーターの配線が溶断して、ワイパーが作動しなくなるおそれがある。</p>			

【参考】

●平成28年2月のリコール届出総件数

		内 訳	
		対象台数100台以上	対象台数100台未満
国産車	30件 (+21)	20件 (+11)	10件 (+10)
輸入車	14件 (+3)	7件 (+3)	7件 (±0)
計	44件 (+24)	27件 (+14)	17件 (+10)

※ () 内は、対前年同月比

●リコール届出件数及び対象台数 (平成27年度)

<速報値>

月	届出件数			対象台数		
	国産車	輸入車	合計	国産車	輸入車	合計
4	22(+2)	1(-10)	23(-8)	2,013,552(+865,710)	98(-39,102)	2,013,650(+826,608)
5	19(+9)	15(+4)	34(+13)	4,364,127(+4,305,411)	67,193(+61,819)	4,431,320(+4,367,230)
6	18(+4)	14(-3)	32(+1)	661,018(-1,457,264)	21,092(-26,867)	682,110(-1,484,131)
7	20(-9)	12(-1)	32(-10)	2,440,366(+2,078,452)	11,265(-22,210)	2,451,631(+2,056,242)
8	2(-14)	5(-7)	7(-21)	661(-41,143)	2,574(-17,439)	3,235(-58,582)
9	24(+11)	17(+5)	41(+16)	991,621(+63,599)	51,431(-61,759)	1,043,052(+1,840)
10	18(-4)	17(+2)	35(-2)	1,860,184(-75,831)	14,679(-43,323)	1,874,863(-119,154)
11	24(+5)	11(+1)	35(+6)	2,615,693(+1,487,780)	6,269(-33,225)	2,621,962(+1,454,555)
12	24(+9)	11(-4)	35(+5)	331,092(-366,712)	5,450(-12,533)	336,542(-379,245)
1	17(-1)	14(+7)	31(+6)	114,968(-83,129)	109,152(+106,845)	224,120(+23,716)
2	30(+21)	14(+3)	44(+24)	1,452,911(+1,361,473)	11,771(-8,111)	1,464,682(+1,353,362)
小計	218(+33)	131(-3)	349(+30)	16,846,193(+8,138,346)	300,974(-95,905)	17,147,167(+8,042,441)

※ () 内は、対前年比